

立命館大学環太平洋文明研究センター第14回研究会

2017年5月30日(火)18:00-19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館研究会室1

## 珪藻を用いた湖沼堆積物の分析

福本 侑

(立命館グローバル・イノベーション研究機構：専門研究員 古環境学)

縞ごとの珪藻種の違い



水中の植物プランクトン的一种である珪藻はガラス質の殻を持ち、死後に化石として湖底堆積物に保存されやすく、水質によって出現する種が変化するため、花粉化石などと並んで古環境復元の重要な指標となります。水月湖、目黒湖以外の湖にも、年縞と見た目が似ている「縞状」の堆積物が頻りに発見されますが、縞模様の成因、年縞か否かを確認するために、その主構成物である珪藻化石や詳しい堆積構造の観察を試みています。



立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumeai.ac.jp/research/rcppc/>